

— 収穫期を迎えて活気づくサムラング住民組合 —

前号でも報告したサムラングの住民組合は順調に機能しています。

コーン収穫期の今、天日乾燥場(コンクリート広場)はフル稼働。子どもたちがバスケットで遊ぶ間はありません。コーンシエラー(脱粒機)で処理したコーンはスコールのない午前中に干して袋詰めされます。2年前に支援したウェポンキャリア(4駆小型トラック)で町に運んだコーン売り上げの一部は組合員から種子、肥料代として返済されました。燃料費程度のコーンシエラーやウェポンキャリア使用料も組合員から徴収されます。このようにして、すでに20万円近い金額が組合にプールされているそうです。次回の種子、肥料などの資材配布準備金として十分で、予想外の成果です。 識字率

識字率10%という大人のための読み書き算数教室と組合理念の指導はサムラング分校教師やコーディネーターのラウロ。組合員は今34名。元手の返済が順調に進めば会員増加も期待できます。7月訪問時には軽かったクリニックの患者用1ハソ献金箱ですが、今はもう硬貨で重くなったことと思います。ライフセンター運営が私たちの手を離れて立ち立つ日も夢ではなさそうです。



クリニック前でトラックにコーンを積み込む住民

— サムラング・クリニック (Klawil Gutnga) だより —

去る8月末のコミュニティー祭り(フィエスタ)でのこと。余興の一つ、子どもたちの竹登りゲームに大人が一人飛び入り参加。重さで撓んだ竹から落ちてクリニックのお世話になったそうです。ビラーンの子どもたちにとって単なる竹登りではゲームにならず、たっぴり油を塗った竿を使用。その先に括り付けられた賞品にあと少しで手が届くというときのアクシデントでした。幸い彼は命に別状はなかったようです。

私たちがジェネラルサントス市の先住民族事務所にいた10月10日の朝、蚊が媒介するデング熱で病院に収容されていた4歳の子どもがなくなったとの知らせを聞きました。

今年1月から4月までの当会支援による緊急給食の実施や、ヨーロッパ(エコ・カリタス)からの救援米の配布にもかかわらず、エルニーニョ現象による長い干ばつで体力の弱った子どもたち中心にここ数ヶ月、風邪やコレラ、腸チフス等による死亡が増えています。当会の月額900ドルの医療支援だけでは今回のような事態には十分対応できません。医療が会設立の原点であることを念頭に置きつつ、教育や水道の普及、経済的自立支援を平行させて、ビラーンの医療問題の根本的解決に少しでも寄与できたらと考えています。今回の訪問時、会員の笠井さんより緊急医薬品代のご支援をいただきました。

体調が悪く離職した看護婦のマリヒルに代わり、助産婦のジョジョがクリニックの責任者になりました。ここしばらくサムラングのクリニック利用状況報告が滞っておりますが、次回はジョジョのサムラング・ライフセンターだよりをお届けできると思います。

— 郵政省にアトゥモロック・プロジェクトの中間報告提出しました —

国際ボランティア貯金寄附金配分を受けて、アトゥモロックで実施している「先住民のための農業組合の組成・運営指導、製粉機械の配備、農業指導」の中間報告提出を済ませました。

この報告書作成のためあって、当会副代表の篠原さん、会員の笠井さん、山崎の3名で10月4日から8日間現地を訪問し、事業の進行状況、成果、問題点を現地担当者、組合代表者とともにチェックしました。今回もマーベル滞在中の会員の奈美さんが事前の調整を含めて全面的に協力下さって、短期間で多くのスケジュールをこなすことができました。